

『いやいや期、どう乗り越える？』



1歳半から2歳にかけて、子どもは「いや」という一語を連発して、大人からの提案を拒否し、「ひとりで」「じぶんで」という主張をし始めます。何を言っても「いやいや」。大人はほとんど困りますね。しかし、この拒否する言葉は、子どもの心の中で親しい大人から自立しようという芽が育ってきた表れなのです。自分が他の誰でもない、自分だとわかってきています。

『大人と子どもがともに育ちあう大切な時間』

この時期は他者とのぶつかり合いから、自分の要求が常に通るわけではないことを学ぶ機会となります。かといって、自我が芽生えてきた子どもに「だめでしょ」「いけません」と一方的に抑え込んでしまうと、自我の芽をつみとってしまいます。



子どものかたくなさに対し、大人はしなやかな心で対応する
「だめ！」の代わりにしてほしいことを具体的に伝えてください。
<例>蛇口の開閉をくり返して遊んでいる子どもには…
「そんなことしちゃだめ」ではなく「お水止めてね」
「そっちに行っちゃだめ」ではなく「～が見たかったのね」等

「いや」をくり返す子どもに折り合いをつける方法

- ①まずは子どもの気持ちを言葉にする（ラベリング）
子どもの気持ちを否定せず、言葉で言い表します
- ②しばらく待ち、大人の考えを伝える
大人のしてほしいと思ったことを具体的に伝えます
- ③子どもに決めさせる
自分の思いを「受け止めてもらえた」「尊重、理解されている」と人への信頼感を感じていることが大切です
- ④ときにはユーモアで対応する



「いやいや」と日々向き合っていると、時には叱ったことや感情的になってしまったことを悔やむこともあると思います。そこに愛情があれば大丈夫です。

でも、子どもに対して「いやな子」とか「そんな子は嫌い」などと人格を傷つけることは決して言わないでください。たがいに本音でぶつかり合い、大人も子どもも成長していける機会になるといいですね。